

『賃労働と資本』を学ぶ

第5回 四国ブロック

商品の価格は何によって決定されるか(口)

商品の価格を決定する競争

司会 II 「売り手たちの間の競争」「買い手たちの間の競争」「売り手たちと買い手たちの間の競争」、このことを「商品の価格を決定する競争は三面的」と言っています。それでは売り手たちの間の競争とはどのようなものですか？

H II 同じ品質の商品を複数の売り手が売る場合には、一番安く売る売り手の商品が売れます。他の売り手を押しつけて、販路を拡大していきます。それは売り手の誰もが売りたいという欲求

があり、できれば自分一人で市場を独占したいという欲求です。そこで自分の商品ができるだけ売れるように、他の売り手よりも安く売るという競争が、売り手たちの間で起き、その競争によって価格が下落すると考えます。

司会 II 買い手たちの間の競争はどうですか。

Y II 買い手が多くいて、モノが一つしかないという時には、できるだけ安く買いたいという思いはあるものの、どうしても手に入れたという欲求がある時には、他の人よりも少しでも高く価格をつけてでも負けないようにお金

を出しますね。

司会 II それでは、売り手たちと買い手たちとの間の競争というのはどうでしょう？

H II 綿花の例で出ていますね。市場にある綿花が少なく、一方で求めている買い手は多い時に、比較的高い値段で買うところから始まって、一方売り手の側は買い手側の競争を見ながら、売れることを確信し、売り手側の中で抜け駆けして安く売る者が出ないかを見張る。そのうち売り手間で結束をし、高い値段で全部売ってしまうというところで協力して売ようになる。

◆みんなの学習講座

かつ買い手側の限度がなければどれだけ高かろうと際限なく値を付けて売るつまり、売り手側は競争をやめて協力するということですね。そういう意味で互いに競争の少ない軍隊が勝利するということです。

司会 Ⅱ 売り手側、買手側、お互い内部闘争があります。内輪げんかが少ない方が相手の軍隊に対し勝利する。綿花の例では、売り手側は1000梱、買手側は1000梱、売り手側は売れることがわかってるので平和が訪れる。需要が供給の10倍あるため、買手側は競争する。こういう関係になります。この結果は商品の価格が著しく騰貴する。ただし逆の場合もある。この場合は二束三文でたたく売りすることになる。これが売手たちと買手たちの間の競争ということですが、前回レポートが提起された内容ですね。

価格の騰落・高低及び需要・

供給とは何か

司会 Ⅱ 高い価格、安い価格というのは何を意味しているか、何が基準なのかというところになります。また価格が需要と供給の関係によって決定されるとすれば、需要と供給は何によって決まるのかということが問われています。重さを秤で量るように、長さをものさして測るように何か基準があり、それが何かを説明されていますが。

I Ⅱ 儲けの基準は、ブルジョアの場合には生産費であると書かれています。

Y Ⅱ しかし、それは本質的な答えになっていないということです。

I Ⅱ 同じ価格の商品がAとB、2つあったとして、どちらも同じ価格、100円だったとした場合、Aの価格が150円に上がった時、Aに比べて貨幣の価値が下がったことになります。また、Bの価格が変わらず100円だった

場合、Bの価値も貨幣に比して同じく下がったことになります。

Y Ⅱ 見方の問題で、先程Iさんが言われた、ブルジョアは生産費を基準としています。正当な価格とか、法外な価格であるとかは、あくまでこのブルジョアの判断であって、それが高いとか安いとかの本質ではないということです。そこで、需要と供給の関係が変わるにつれてどうなるのかということが、前回レポートが話したようなことになると思います。そして高い安いというところが、一方の商品価格が上があればもう一方の商品の価格が安くなって見えるということです。

儲かるところへ

「資本の産業間の移動」

I Ⅱ 資本は常に動いています。儲かるところに資本が動き、そこに多くが集まりすぎると過剰生産により儲けが



資本主義的生産は無政府状態（自動車工場）

なくなってしまうので、また新たな儲け場所を求めて動きます。価格も止まつておらず変動するが、その上下は何で決まっているのかということ。上下運動の起点が「生産費」であるということ。つまり、価格は止まることなく上下するけれども、それは互いに相殺しながら生産費に一致すると

いうことです。ある意味価格はその時点で偶然によって決まっているように見えるけれど、その偶然をつかさどる本質的な何かがあるということです。司会Ⅱ資本主義的生産は無政府状態であると言われますが、この説明をお願いします。

AⅡ無政府的とは計画的ではないということ。それぞれ勝手気ままにというような意味です。計画的にするとは、一つの商品を生産していいのは誰が、何個生産すると決めればいいということだと思えます。

YⅡ資本主義社会ではあくまで計画的ではなくてそれぞれの資本家が無政府的に生産をしている。しかし計画的でないにも関わらず、何かの力によってなされているということ。KⅡ資本の投下が儲かる産業に移動するが、そこでも競争があり、再び他の産業に移動するということが繰り返され、平均になっていくということ。

すね。

司会Ⅱ資本主義的生産の根本矛盾を書いた部分であると言えます。個々の資本家が自身のことしか考えずに勝手に生産をしている。しかし淘汰されるなどして調整されていく。しかし落ち着くのは一瞬で、常に動き続けているのです。

KⅡ生産物というのは社会的であるのに、それを生産する資本家は、過剰生産も含めて無秩序で計画性もない。自らの商品を売るために過剰生産にしかなり得ないし、その生産から手を引いたり入ったりを繰り返し、競争がある限り無計画にならざるを得ないということです。

※生産費：生産手段と労働力の価格の合計

価格は必要労働時間によって

決定される

司会Ⅱ次は価格が生産費によって決ま

◆みんなの学習講座



商品の価格は個別具体的な労働時間で無く、社会的平均労働時間により決まる（田んぼを耕す）

るということはどういうことかが説明されています。商品の生産に必要な労働時間によって決まるということですが、簡単に説明できる人はいますか？例えば同じ大きさの田んぼを耕すのに、ある人は1時間でできる。ある人は2時間かかる。またある人は

30分でできる。じゃあ労働時間で価格が決まるのであれば2時間かかって耕す人の価値が高いのかということですが、だから必要な労働時間というだけでは不十分なのです。

I II 社会的平均的な労働時間ということですね。

会社 II つまり生産に必要な労働時間というのは、個別具体的なものではなく、社会的な平均労働時間というところが重要なんです。

会社が工場を建て、労働者も雇い、機械や原料を買いました。さあ働いて下さいとなるのですが、その機械や原料もどこからか買ってくる必要があります。それらを売る会社があるということですね。その会社でも労働者がいて、彼らの労働がそれら機械や原料という価値のある商品を生産しています。つまりそれらの労働による価値も含まれているということです。それでは、労働の賃金は需要と供給の関係でとい

うところですが、どうですか？

A II 人手が必要な時は賃金が上がるということですか。

会社 II 端的にはそうです。ここで重要なのは賃金とは何かということですが、復習ですが労働とは何でしたか？労働者は何を売りますか？

K O II 労働者は労働力を売り、賃金を得ます。

会社 II それが次のところになります、労働者が人間として働き続け、生き続けるため、いわば人間の生産費ということですね。

Y O II 社会的な労働者の需要と供給によって、賃金が変わってくるというのが一つ。一方で、テキストにあるように、商品価格一般の変動に応じて労働も変動するというのは、いわゆる物価の変動が、賃金の変動に関わってくるという理解でいいのですか？

H II 賃金は労働力の再生産費ですから、再生産のために消費する食料などの価

格が騰貴すれば、当然賃金も上がらなくてはいけませんね。

M II今の資本は、労働者は使い捨てていいというような考えを持っていいのではないかと思いますが。

K IIしかし労働者を使い捨ててしまうこともできません。

I II個別の資本で見ると、今ウチが儲かればいいということで労働者を奴隷のように扱うような資本もあります。

しかし資本を大きな枠で見ると、価値を生み出す労働者がいなくなってもらったのでは困るという矛盾があり、労働者を生かさず殺さずという状況になっているのです。

司会 II一旦まとめます。価値の大きさは何によって決まるか。価格は生産費によって決定される。ということは価格は生産に必要な労働時間によって決定されることに等しい。価値規定と言いますが、詳しく言うと、社会的に必要な労働時間とは、現に存する社会に

正常な生産諸条件と労働の熟練と強度、いわゆる社会的平均的な、何らかの使用価値をつくり出すために必要な労働時間である。つまり抽象的労働時間です。このことが資本論の第1巻第1分冊の冒頭に書かれています。続いて、商品の価格を規制する一般法則はもちろん、賃金も労働の価格をも規制する。労働の賃金は需要と供給の関係に応じて労働も変動する。この内部の変動において労働の価格は生産費によって、すなわちこの労働力という商品を生産するに要する労働時間によって決定されるのです。

労働力の生産費とは

司会 IIでは労働力の生産費の中身は何かです。

Y O II 労組青年部は「賃金は労働力の再生産費」と学習しています。青年部では、賃金闘争のために各単組に「赤

手帳づけ（職場の点検・摘発のメモ）」の提起をしていますね。

H a II 青年部ではまず公式から入っていつてしまうので、そういう意味では衣・食・住など「生理的生活費」、活力となるような「文化的生活費」、技術習得などの「教育的生活費」、次世代を育成するための「生活費」という4つの柱、この観点がないといけないところから積み上げの議論、学習をしています。古典を通して、理論的にその中身を深く学習をする必要があると感じています。

K IIここでいう労働者の最低限の価格というのは、生理的生活費のみの話で、文化的、育成等は含まれていないですね。

Y O II 育成費があつて賃金に大きな差が出てくるということですね？ いわゆる育成費が少ない人たちの賃金は安いとありますが、最低限というのは基礎部分であると思います。とにかく

◆みんなの学習講座

食べていくだけの賃金ではないですか。HⅡ労働者の生存費及び繁殖費だけでこの時点ではそれ以外の文化的要素などは含まれていないですね。

KⅡ非正規労働者は、結婚できない、子どもをつくれないうい状況で、その生存すらも脅かされている状況です。つまり生理的生活費すら下回ってきているということです。

YⅡ社会主義社会になれば、高学歴の者もそうでない者も同じように人格者として扱われるようになります。資本主義社会では、いくら医学部を出て医者免許を持っても、小包請負の仕事に就けばその能力しか必要とされず、医者としての能力は無視されます。なので、教育費は必ずしも賃金に反映はされないということです。

KⅡ労働者は穴を掘ったり、家を建てたりするが、それ自体が目的ではありません。それは自己犠牲としての労働であって、それ以外の時間で、家族と

食事に行ったり、映画を観に行ったりなどの時間のために労働をしている、つまり目的は生きるための賃金を得ることなのです。今実際には賃金が労働力の価値以下に抑え込まれているので、まともに生きていくことすらできていないことが問われます。

司会Ⅱ労働力そのものの生産費とは何か？ という問いに対して、労働者を労働者として維持するために、また労働者を労働者として育て上げるために必要な費用であるということです。その中身は、彼の労働力の価格は日常生活手段の価格によって決定される。だから労働者の消耗は機械の消耗と同じ仕方である。賃金の価格を決定する要素は3つある。一つ目は生理的生活費と文化的な生活費であり、生活必需品は、労働者を労働者として健康な状態において維持させるものではない。二つ目は繁殖費として労働者の家族の生活費、資本にと

っては消し去る労働力を不断に、新しい労働力に補充させねばならない。労働者が生まれなければ資本主義社会は続かないため、結婚して子どもをつくり育てないといけないのです。そして三つ目の教育育成費、養成を受けた労働力は資本主義の発展にとって求められる。これらがすべて賃金には含まれないといけない。これらが要求として人間らしく働き続け生き続けるために出てこないといけないのです。総称すると労働者の生存・繁殖費となる。こうして決定される賃金が最低限であり、生産費一般による商品の価格決定と同じように、個別ではなく、全労働者種族の賃金はその変動の内部において最低限に一致する、ということです。

青年部で赤手帳付け運動を行う場合も、これらのことが根底にあるということを学習し、討論から要求につなげていくことが必要です。